

住民のスマホへ危機感ある切迫した防災アナウンスをリアルタイムに実況放送
さらに、住民からのSOS投稿を連携機関が組織横断的に即時情報共有

■情報伝達手段の抱える問題点と課題:

〔防災行政無線〕

- 屋外スピーカーから発する音声や放送内容が聞こえない
- 放送アナウンスがゆっくりで定型的なため詳細が伝わらない
- 隣町への通勤や出張先では聴くことができない

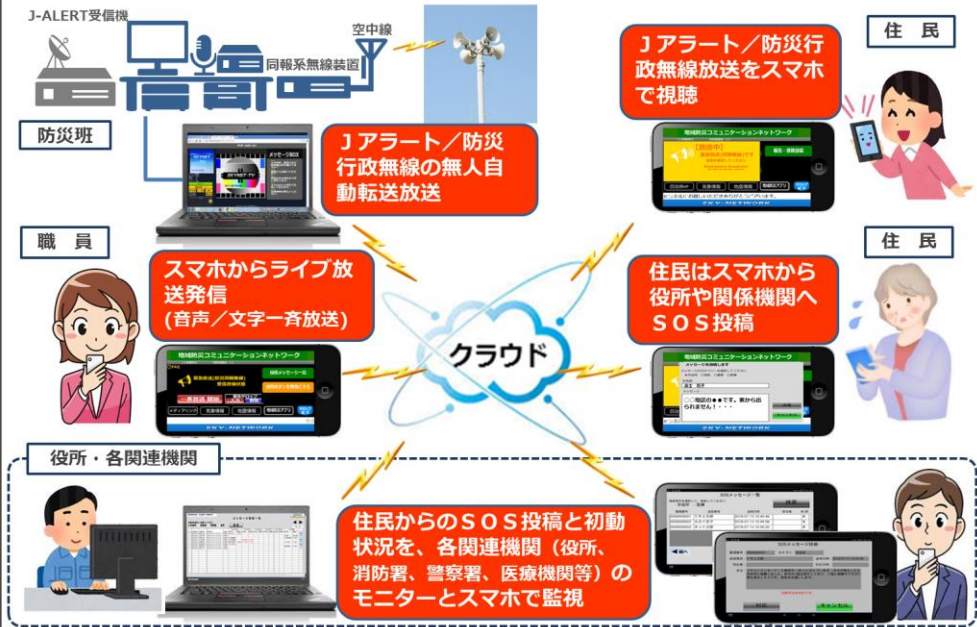
〔戸別受信機等〕

- 出勤や外出時は意味をなさないのに高価である

〔防災メール〕

- 他のメールに埋もれてしまったり遅延することがある
- 必要としないメールが多く気にならなくなる

防災行政無線の自動転送放送、スマホから放送を発信するモバイルページング放送、住民からのSOSを組織横断的に監視する投稿情報管理が、今まで解決できなかった問題や課題を解決。



直面する異変に対し『自分は大丈夫』と思わせない防災放送をICTで実現

システムの定量的効果

- 戸別受信機と本システムとの費用比較(利用者1万人規模で比較)
 - 〔戸別受信機〕 導入費用:500,000,000円 (1台あたり約50,000円)
 - 〔本システム〕 初期費用: 3,456,000円 月額費用:100,000円/月
- 運用期間で見た費用比較(5年間で比較)
 - 〔戸別受信機〕 500,000,000円
 - 〔本システム〕 9,456,000円 **👉 490,544千円(98.1%)の費用削減、さらに、『緊防債』適用対象**

「放送」を通じて肉声による呼び掛けが、危機感ある切迫した状況とメッセージで人を動かします。